

contents

◆ あいさつ	2
◆ 14年度の活動	
・ 事業報告	3
・ 活動アルバム	4
・ 住まいの研究会	6
・ 講習会	20
・ 20周年記念懇親会	23
・ 部会報「とおく」20周年記念号より	24
◆ 10年の歩み	
・ 部会報「とおく」10年の歩み	33
・ 女性部会10年の歩み	34
・ 住まいの研究会10年の歩み	38
◆ 歴代役員名簿	45
◆ 女性部会規約	46
◆ 編集後記	47

生まれ変わった気持ちで…
再生！兵庫女性部会！

女性部会長 平内 節子

兵庫県建築士会女性部会は、設立20年を機会に新しく生まれ変わります。180名余りの大所帯となった兵庫の女性部会も、ますます活動が盛んになる中、時代の流れと共に活動形態をリニューアルしようと思います。20年という大きな時代をきり開いて下さった諸先輩の礎を元に、これからは益々、若いパワーが十分発揮できるような組織に変えていきたいと思っています。

2年前、本部組織改革の折、女性委員会と名称を替え、委員会の下、女性部会は従来どおりの活動をしてきました。今後も委員会は、部会の活動を支援しつつ、他の委員会との情報交換を行い、女性部会の活動に反映させていきたいと思っています。

家事育児をかかえながら、仕事に前向きに対処してきた私達には、今や介護という課題も目前にかかえております。仕事も家庭生活も男女が共に関わりを…と言われつつ、まだ、私達女性は大きな荷を背負っているのが現状です。だからこそ、生活者の視点を持つ女性建築士としての社会での役割は大きいと思います。また、加速度的に発展したIT化も手伝って、自宅で居ながらにして仕事のできる環境になってきました。これからは、時間を有効に活用しつつ、県内各地からの情報も交換しながら、幅広い活動ができるのではないかと思います。

21世紀を担う子供達へ、また、この限りある地球のためにも、美しい、住みよい環境を次世代へ伝えていけるよう、ますますの研究活動を！そして一般の方々へ発信、普及啓発へとやるべき課題に向けて、新たにスタートしていきます。

この度、20年の活動形態の総まとめとして、平成14年度は20周年記念事業を展開してきました。ここに、その記録集をまとめましたので、ご一読いただけましたら幸いです。

今後とも、みなさまのご協力よろしくお願いいたします。

平成14年度事業報告

20周年記念年間テーマ

「サスティナブルな暮らしと住まい～女性建築士がめざすもの～」

- ◆定例会 4/13 丹波の森公苑会議室 25名(77名/175名：委任状出席含)
- ◆役員会 4/8、5/18、6/15、7/27、9/21、10/26、11/16、12/14、1/18、2/8
3/15、4/19

- ◆ブロック活動見学会 4/13 「城下町」柏原 参加者 25名
- ◆講習会 6/29 20周年記念特別講演会「実務に役立つ木構造」

講師 稲山正弘氏(稲山建築設計事務所)

神戸市教育会館会議室

参加者 73名

共催 健康な住まいを考える会・兵庫県立丹波年輪の里

- 11/30 兵庫県建築士会創立50周年記念青年、女性委員会合同事業

「高齢化に向かう暮らしと住まい」

講師 眞藤英恵氏(理学療法士)

県立総合リハビリテーションセンター1階介護実習室

参加者 71名

- ◆住まいの研究会 テーマ「住まいにおける“木”の再検証」 登録 48名
5/18、6/29、7/27、9/21、10/26、12/14、1/18、2/8、3/15

- ◆近畿女性建築士連絡協議会 3/7-8 見学会 大阪 参加者 19名
(綿業会館、中央公会堂、愛珠幼稚園、大阪倶楽部など)

- ◆全国女性建築士連絡協議会 7/12-13 東京 参加者 7名
「地域と共生する住環境づくり～様々な職域・地域で活躍する建築を担う女性たち～」

- ◆全国大会 10/17-18 三重 参加者 3名

- ◆部会報「とおく」20周年記念号 10月発行

- ◆20周年記念懇親会 クルージング船「コンチェルト」参加者 47名

- ◆普及・啓発 10/26 神戸市すまいの安心支援センターエコエコハウジングセミナー
「林業家発～山の問題・木の生かし方～」企画運営
講師 能口秀一氏(株式会社おぎもく)、
八木数也氏(八木木材社長)

4/13 定例会・見学会（柏原町）



△ 築100年の町屋を改装した
イタリアンレストラン「オルモ」



オルモ店内にて △
酒居丹波県民局長よりひとこと



オルモ店内にて △



町並み散策 木の根橋 △

10/17・18 全国大会（三重）



屋台村パネル展示 △



クイズ 知ってるつもり？ △



2/15
20周年記念懇親会



受付の様子 △



プレゼントが
当たった！▽

6/29 20周年記念特別講演会



稲山正弘氏による講演

写真で見る
平成14年度の活動



△ 全国女性建築士連絡協議会（東京）に参加



△ 歴代女性部会長へ花束贈呈

3/7・8
近畿建築士会協議会女性部会見学会（大阪）



△ 街中見学



食事 △

*****平成14年度 住まいの研究会活動報告*****

テーマ : 『住まいにおける“木”の再検証』 登録者48名

長年、住まいの研究会では、住まいによる「環境共生」をテーマに環境に負荷をかけない住まいや住まい方などについて、提案・発信してきました。

これからは更に、スクラップアンドビルドを繰り返さない価値観が不可欠だと考え14年度は「循環する木の住まい」を取り上げて学習することになりました。国産材の品質や基準、木構造の安全性について再確認し、また新たな自然素材や工法について建築業界の動きもふまえて検証、学習してまいりましたが、日々進化する材料や工法について情報の整理をすると共に、私達は一般消費者を始め広く社会へ「新しい価値観」を提案し発信する必要性強く感じ、その一助となるよう展示用のパネルの作成に取り組みました。バタバタと目まぐるしく駆け巡った1年でありましたが、ささやかでも社会へのアクションとなることを願い、今後の活発な普及啓発活動につなげたいと思います。

<年間活動記録>

- | | |
|--------------|--|
| ①平成14年5月18日 | 今年度のテーマについて
次回講演会のためのプレ学習会「木構造」 |
| ②平成14年6月29日 | 特別講演会 テーマ:「実務に役立つ木構造」 講師:稲山正弘氏 |
| ③平成14年7月27日 | 学習会「木構造の安全性について」 |
| ④平成14年9月21日 | 学習会「国産材の流通 品質や基準について」 |
| ⑤平成14年10月26日 | 普及啓発エコエコハウジングセミナー開催
テーマ:「～街の住まい手に伝えたい～
「林業家発一山の問題・木の生かし方」 講師:八木数也氏、能口秀一氏 |
| ⑥平成14年12月14日 | 学習会「木質材料と木の生かし方」 |
| ⑦平成15年1月18日 | グループワーク 普及啓発の為にパネル作成 |
| ⑧平成15年2月8日 | 〃 |
| ⑨平成15年3月15日 | 住まいの研究会内にてパネルの説明・発表
トーク 「次年度に向けて」 |

全 9回

日時:平成14年5月18日(土) 13:30~15:30

場所:テックンビル5階 会議室

参加者:北野 小池 小西 後藤 鈴木 竹本 垂水 長町 橋本 林田 平内 正木 山本 吉川
横田 (計15名)+事務局1名

内容:

■今年度のテーマの確認 14年度テーマ:「住まいにおける“木”の再検証」

3つのグループ分け

- ①木構造の安全性について
- ②国産材の流通、品質、基準、県産材の活用について
- ③新しい木の材料について(古材の再利用、輸入材の安全性を含む)

全員がそれぞれ一番関心のある分野を申し出てグループ分けをした。

共通した意見として、各分野どれも感心がある為、それぞれの分野で資料集めやまとめをしていくが互いに情報交換しあいながらすすめる。

グループ① 小池(正木) 垂水 長町 小西 後藤

グループ② 山本 横田 正木 林田 平内 横山

グループ③ 吉川 竹本 北野 鈴木 橋本 *下線は住まい研担当者を示す

■木構造の事前学習(アドバイザー:正木恵子氏)

6/29開催の木構造の講演会(講師:稲山正弘氏)に備え、正木恵子氏より提供された資料を基に説明あり。

●建築基準法における木造軸組工法の計算方法

- ①壁量計算ルート
- ②許容応力度計算ルート
- ③限界耐力計算ルート

●品確法における性能評価方法、基準

- ①壁量計算ルート 参考図書*2
(対象建築物≤2階≤500㎡)
- ②許容応力度計算ルート 参考図書*1
- ③限界耐力計算ルート

(参考図書)*1「木造軸組工法住宅許容応力度設計」(財)日本住宅木造技術センター
標準計算法、詳細計算法による計算例

*2「木造住宅のための構造の安全に関する基準解説書」

(財)日本住宅木造技術センター

その他 「建築技術」2002, 5

稲山正弘氏の作品資料 日経アーキテクチャー2001, 8, 20

「岐阜県立森林アカデミー」接合金物を出来るだけ使わないムク材の
“粘り”を引き出す独創的架構

平成14年度 第2回住まいの研究会記録

日時：平成14年6月29日（土）13:30～17:00

場所：神戸市教育会館501号室

共催：健康な住まいを考える会・兵庫県立丹波年輪の里

参加者：岩井 井上 尾瀬 河南 北野 栗林 久保 小西 小山 後藤 鈴木 竹本
垂水 常俊 長町 野崎 橋本 林田 平内 正木 村田 矢代 山際 山本
横田（計25名）+事務局1名・一般47名

内容：女性部会20周年記念特別講演会

テーマ 「実務に役立つ木構造」

講師 稲山 正弘 氏 東京大学工学部建築学科卒、同大学院博士課程修了
(株)稲山建築設計事務所 代表取締役 工学博士
主な構造設計：岐阜県立森林文化アカデミーなど
2002年度日本建築学会賞（技術）、松井源吾賞受賞

13:30 開会 13:35～15:35 講演 15:40～16:55 Q & A 17:00 閉会

1. 木造建築物の構造計画の基礎知識

阪神・淡路大震災における木造住宅の被災要因として

① 壁量の不足

壁の絶対量の不足。単位長さあたりの耐力の不足。

② 壁の配置バランスが悪い。

狭小間口の住宅や、店舗では、正面に壁がとれず、ねじれによる破壊がおきる。

③ 上下階の力の伝達が困難な形状

上下階の壁、隅柱の不一致、2方向下屋等により力の伝達ができない。

④ 接合部の緊結不良

筋かい端部、柱脚、通し柱と胴差、小屋梁、小屋束等が引き抜かれる。

⑤ 基礎の強度不足

無筋コンクリートの布基礎や配置的に閉じた形状になっていない基礎。

⑥ 土台や柱の腐朽

壁内部への雨水の浸入や床下の湿気による腐朽、シロアリの発生。

⑦ 建物の一体性の欠如

小幅板やバラ板等は合板に比べて一体性が悪い。吹き抜けや大空間は不利である。

※ 木造の最大耐力、水平変形はほとんどが接合部が原因で大変形を生じる。

※ 水平力に対する抵抗形式……せん断系、軸力系、曲げ系

2. 仕様規定から自由度を広げる構造計算へ

・木造軸組工法の構造計算ルートと法的位置づけ

木造軸組工法の構造計算ルートのうち、限界耐力計算については、木造ではほとんどが使えず、令46条の壁量計算では、壁倍率が与えられた特定の仕様の耐力壁のみで計算するもので、壁倍率試験を行っていない仕様には対応できない。

・許容応力度計算法の主な改訂要旨

(1) S1単位系に統一する。

(2) 材料強度・許容応力度を改正基準法に合わせる。

(3) 風圧力の計算法を改正基準法に合わせる。

(4) 壁のつりあい良い配置の確認は、地震力に対して偏心率の計算を行い、 $R_e \leq 0.3$ を確認する。

(5) 令第46条の3の火打ちを設ける規定を補完するために、水平構面およびその接合部の検討を行う。

(6) 柱脚・柱頭の必要引抜耐力の計算は、従来の「3階建て木造住宅の構造設計と防火設計の手引き」のような存在応力で行うのではなく、改正基準法の告示に合わせて、壁の許容せん断耐力をもとに算定する。

(7) 鉛直構面および水平構面の許容耐力算定の方法は、耐力評価を倍率 $\times 1960N$ で行う「標準計算法」と、接合部等の数値をもとに計算して許容耐力と剛性を導く「詳細計算法」の2通りを用意する。

また、柱脚・柱頭接合部の必要引抜耐力算定の方法についても、基準法で示されたA1 \times B1-L方式の「標準計算法」と、曲げ戻し効果や直交壁効果などを含めて計算して導く「詳細計算法」の2通りを用意する。

(8) 標準計算法における鉛直構面の耐力要素は、令第46条と昭56年告示1100号で壁倍率が与えられている耐力壁、および、性能評価基準で定められた準耐力壁や腰壁等とする。

(9) 標準計算法における耐力壁の許容耐力は、壁倍率 \times 壁長 $\times 1960N$ で計算する。偏心率計算や剛性配分の計算時の剛性は壁倍率 \times 壁長に比例するものとみなす。但し、筋かい耐力壁は、圧縮筋かいと引張筋かいの違いを考慮した耐力とする。

(10) 詳細計算法で耐力に算入できる耐力要素は、(8)の耐力壁、準耐力壁、腰壁等の他に、柱の曲げを考慮する面材張り壁や、モーメント抵抗型フレーム（いわゆる木質ラーメン）も含める事ができる。

・新許容応力度設計法によってどんな設計が可能になるか。

(1) 出隅部にL型に壁を配置する事で、直交壁効果によって隅柱の柱脚金物を軽減できる。

(2) 壁の配置が偏っているプランの場合、壁の少ない側の釘間隔を小さく、壁の多い側の釘間隔を大きくする事で、偏心率を抑える事ができる。

(3) 狭小間口のファサード面に通し柱型ラーメンを用いて、1階間口いっぱいを開放的に利用した都市型3階建て住宅が可能。

(4) 鉛直構面を太い柱と貫、差し鴨居、たれ壁、面格子で開放的に造り、水平構面を厚板張りで構成した伝統工法タイプの住宅が可能。

(5) 外周をたれ壁と腰壁だけで構成した、横連窓ファサードの住宅が可能。

* これまで、壁倍率試験しか途がなかった種々の耐震要素が合法的に構造計算で耐力評価できるようになったことで、従来の様な耐力壁にとらわれない新しい構造デザインの可能性が開かれ、今後の木造住宅の多彩な発展が期待される。

平成14年度 第3回住まいの研究会記録

日時：平成14年7月27日（土）13:30～15:30

場所：テッケンビル

参加者：岩井 浦 尾瀬 小西 後藤 澤木 竹本 垂水 常俊 長町 平内 村田
山本 吉川 横田 横山（計16名）+事務局1名

内容：

■グループ①の発表 木構造の安全性について

6/29の稲山正弘氏の講演内容の中から何点かをもう少し噛み砕いて実務に役立つものにしたというグループ内の意見や会員の要望により、4項目を取り上げた。

- ① 壁量計算とN値計算のわかりやすいやり方 (後藤)
- ② 許容応力度計算ソフト使用の可能性 (栗林)
- ③ 木材強度試験の依頼方法及び料金について (長町)
- ④ 昨年度フォレストツーリズムでの強度試験の結果 (垂水)

① 後藤氏が実務で使用している壁量計算シートの紹介と使い方の説明。

(財)日本住宅木材技術センターによるN値計算方法とN値計算シート(同センターのHPよりダウンロード出来る)の使い方の説明。・・・実物件の計算例の説明や実際の数字を入れての計算があり、わかりやすかったが、やはり自分でやらないとわからないものである。白紙のシートも配布。

② 栗林氏欠席の為、詳しい資料が提出された。

講演会で紹介された構造計算ソフト富士通「STRDESIGN V10」お試し版(同社HPよりダウンロード出来る)の中から抜粋された資料。

栗林氏からのコメントとして、使いこなすには構造計算の知識とかなりの時間が必要。値段は15万円位なので「構造チェッカー」と比較して使い易い方を共同で購入し、一緒に勉強していきたいのでやりたい人は連絡を乞う、とのこと。

* 正木氏よりのコメント

許容応力度計算ソフトは、使い易く改良されてから購入した方がいいのではないかと。
許容応力度計算によって設計の自由度が増すのは確かだが、しっかりした構造造の基本的見識が備わっていないと危険も増す。その点壁量計算は安全性が高い。

③ 「兵庫県森林木材技術センター」で扱う木材強度試験について。

同センターより紹介された「鹿児島県工業技術センター」で扱う試験について。

* 工業技術センターについてはHP (Yahooで検索できる)で詳しい事がわかる。

- ・何れも試験そのものは、5000円程度まででできる(国の機関は若干高い)が、それは試験そのものの費用で試験体費は実費で必要となると考えられるので、一試験項目の結果を出すのに6試験体或いは12試験体を用意するとなるとそれなりの費用が必要となってくるので、講演の中で稲山氏が言われたように、ある構法の許容耐力を評価してもらうとなるとかなりな費用がかかるのではないかと。
 - ・個人住宅を建てるのにそんなに費用と時間がかけるだろうか。
 - ・一度とれば、その構法を永続的に利用できるので一軒の費用とすればそう大きなものにはならない。
- 上記のような意見が出た。

④ 強度試験の結果

垂水氏の自宅の改修工事の際、梁の補強として実際に行った、無垢材の梁の両サイドに合板を貼った場合強度が増すか、という実験を依頼した。構造用合板、接着剤+釘打ちを希望したが、ラワン合板+酢ビ樹脂接着剤で試験が行われた。

結果は、資料 丹波年輪の里発行「林産だよりvol.66」にあるとおり。

- * 試験としては、合板と梁の接着度、素材そのもののバラツキ、という問題があり、また、合板のヤング係数は低いので(40程度)側面補強より上下補強の方がいいのではないかと、との指摘が技術センターの方から出されている。
- * センターの永井さんのはなし・・・合板は、縦にせん断力がかかると繊維方向の部分が割れ易いのでこのように梁の両サイドに貼って補強する場合にはLVL(大断面積層材;厚木を薄く切削した単版を幾層にも積層したエンジニアリングウッド)を繊維と垂直に力がかかるように貼った方が効果的ではないかと。(強度試験について尋ねた時の余談)

長町氏からの資料提供 <推薦図書>

多田英之 著「免震の真実—耐震神話の再構築へ」(毎日新聞社)¥1500

「建築の設計と責任—なぜ今も地震で建物が壊れるのか」(岩波書店)¥2200

・・・その他・・・

新建ハウジング7月10日号(三角火打ち金物の紹介、木材の強度データ等の記事)

建築雑誌 2002.6 vol.117 No.1489 特集「木質構造デザインの可能性」

■グループ討議

平成14年度 第4回住まいの研究会記録

日時：平成14年9月21日（土）13：30～15：30

場所：私学会館

参加者：栗林 久保 小西 後藤 竹本 常俊 橋本 浜谷 林田 村田 吉川 横田 横山（計13名）+事務局1名

内容：

■グループ②の発表 国産材の流通、品質、基準、県産材の活用について

●国産材と輸入材の比較について…調査報告

<横田>

- ・国産材より輸入材が多く利用される理由
- ・両者のメリットデメリット
- ・材木の流通について
- ・国産スギの流通コストの例
- ・建設会社、材木店リサーチ 以上の5項目について調査報告をした。

* 山がかかえている問題、流通経路の複雑さ、品質の問題、建設会社の意識、誤った情報などいろいろな事が網の目のようになって複雑に絡み合っている。

* 昔は2年から3年かけて家を建てていたが、今では材木はプレカットし出来るだけ短い期間（3ヶ月から4ヶ月）で家を建てる。

* エアコンによる冷暖房が主流になり、木材の乾燥等、より寸法精度の高い木材を供給していくことが必要不可欠になっている。

* 国産材を使うためにはどうすればいいか

- ・国産材の商品価値を輸入材と同じレベルにもっていく必要がある
- ・品質面で消費者の信頼を得るのが一番大切

—討議—

各地で伐採した材木を吉野など有名な産地に運んで吉野ブランドとしているが、

これについては品質を保証するブランドとしての考え方ということらしい

吉野産天然杉ということではない。（県農林水産部農林水産局の土居氏）

兵庫県のスギなどは構造材として本当に信用できるのかまた流通に問題があると聞いているが具体的にはどうなのか。

昔は木の癖を職人の技術（技）で補っていたが今はどうか？

参考文献

・建築知識2002/3月号 ・コンフォルト1996/夏号 ・TOTO通信2000年冬号

●木材利用促進についての行政のバックアップ体制について…調査報告

<横山>

地域の木材利用促進について、行政による近隣都市のバックアップ・フォロー体制について説明。（林業基本法を37年ぶりに改正している）

●兵庫県、県産材使用住宅の融資制度の紹介…調査報告

<岩井>

兵庫県産木材利用木造住宅特別融資制度について（平成13年度利用者は70軒）

>申し込みができる人

- ・建築基準法に適合しており県内に、県産木材を50%以上使用した自ら居住するための木造住宅を新築、新築購入、または増改築される方で貸付金の償還が確実にできる見込みのある方。

>融資を受けられる住宅は？

- ・在来工法木造住宅で全木材使用量のうち、兵庫県内産の木材を50%以上使用しており（納材証明書必要）、兵庫県内に事務所を有する建築業者により建築されている住宅。

●県産材を取り扱っている材木店について情報提供…調査報告

<横山>

・兵庫県産木材供給部会（32社）のリスト配布（納材証明書を発行してくれる所）

上記32社は現在36社に増えており、もうすぐ37社になる予定。（兵庫県農林水産部農林水産局の土居氏）

・上記以外の所でも木材の出所がはっきりすれば県木材業協同組合連合会（県木連）の方で証明書を発行してもらえる。

・年間40億円の枠があるがその半分の20億円くらいしか使われていない。

・いったん銀行に預託金としてプールされているがペイオフの事も有りこれからは金額が減っていく見通し。（リサーチ<横田>尼崎市役所にて）

■グループ討議



平成14年度 第5回住まいの研究会記録

日時：平成14年10月26日（土）13:30～15:30

場所：すまいるネット

参加者：岩井、浦、栗林、澤木、鈴木、竹本、垂水、常俊、長町、橋本、浜谷、平内、

矢代、山本、吉川、横田、横山（計17名）+非会員2名+一般15名+事務局1名

協力：兵庫県立丹波年輪の里

内容：普及啓発活動エコエコハウジングセミナー

テーマ～街の住まい手に伝えたい～「林業家発一山の問題・木の活かし方」

講師：

宍粟郡一宮町 素材生産業 八木木材（協同組合宍粟の森の木） 八木数也氏

水上郡春日町 木材製材業 株式会社おぎもく 能口秀一氏

「県内の森林資源と木材流通システム」（八木氏）

【山の現状】

素材生産業とは、木を買って切って製材所にも買ってもらう仕事。

人の手をかけると採算割れしてしまうので、機械化している。しかし、機械は高く誰でも導入できるわけではなく、機械を導入出来ない業者は撤退してゆく。10年前105社あった業者が今は7社しかない。

木は1m³（リユーベ）で表すが原木市場で1m³ 当たり1万円。切り出した木の出荷作業を人間がすると1m³1万2千円かかる。

山自体も一見きれいな森に見えるが、実際は手入れされていなかったり、虫の被害を受けていたりして病んでいる。しかし、手を入れるお金がない。

森の役目は水を育み二酸化炭素を蓄えること。最近、岡山の牡蠣養殖関係者が海の水がきれいになり良い牡蠣できるということで植林しに来る。

今後の取り組みとして間伐材の利用方法を研究中。

【あらかじめ受けている質問について】

○「質問1/県産材を使うのが理想だがなかなか使えないが…」

回答：確かに外材に比べ国産材は値段が高いから使いにくい。工場製品のように品質が同じなら使いやすいが、国産材は品質が一定しないので使いにくい。また国産材を扱う業者は小規模なグループで販売宣伝力がない。それで協同組合を作り、木材を買いやすいように取り組んできた。産地見学会や口コミで宣伝している。最後はエンドユーザーの理解。

○「質問2/産直販売ルートや木のコーディネーターというのは信用して大丈夫か？」

回答：大手住宅メーカーと同じで良心があるかどうかだと思ふ。産直がみな良いというわけではない。買う時は、実際に足を運んで確かめてみるべき。

○「質問3/流通について。非常にわかりにくい…」

回答：当日配布資料の「協同組合宍粟の森の木のパンフレット」参照

「製材工場の役割と製材加工品の製造技術」（能口氏）

【製材業の現状】

木材製材業は工務店に直接木材を販売する。

木は、生えている時の向きや取り出される場所により強さが変わる。

昔は1年かけて木を準備していたが、今は工期が短くなっているので工務店も木を見る余裕がない。

【おぎもくでの取り組み】

当社では木材は人工乾燥材に対応し、ストックしている。乾燥材は製材してから人工乾燥にかけるので、製材するときに縮みと反りを見越してひとまわり大きくカットする。乾燥後の含水率チェックを行い、JASの規定に不合格であれば再乾燥を行う。乾燥・管理はすればするほど単価が上がるので、単価勝負だと他の業者に負けてしまう。

収縮が始まるのは含水率30%以下から。外部と内部の水分傾斜が違っていると日割れ（自然乾燥などで起こる表面割れ）が起きるので内部まで乾燥させた方がよいが、コストがかかる。

エンドユーザーが木材にどれだけ気を配ってもらえるかが大切なので、直接エンドユーザーに広報活動もしている。

【会場からの質疑】

質問1：扱っている木材のメインはスギだと思うが、他にどんな材があるか？オススメは？

回答：ヒノキ、見た目が鮮やか。スギは暖かさがある。メリットはやわらかいがデメリットは傷をつきやすいこと。モミ、ややヤニが出るが、他にはマツ、ケヤキなど。

質問2：木の伐採する理想の時期は？また理想の着工時期は？

回答：木の成長が止まる今頃が伐採によい。3月になると木が成長のため水分を吸い上げるのでその前に伐採するのがよい。

着工、上棟の時期については、納期から逆算して相談して欲しい。しかし、納期も乾燥方法で全く違う。人工乾燥か天然乾燥かで色目が変わってくるが、好みで選べばよい。人乾でも温度設定で木の強度や香りが変わる。

芯を割って乾燥させ強度を優先するか、内部割れにして見た目を優先するかは好みの問題。

実際、含水率が絶対18%以下にする必要があるのか、という疑問もある。つまり割れで対応するとか。

シロアリが嫌いなスギを選ぶなど、いろいろ検討して木材を選んで欲しい。

質問3：m³単価がわかりにくい。どこで聞けばよいのか？

回答：決まった単価というものはない。コストと要望を聞いて提案している。

安いものを求めればいくらでもあるが品質の保証がない。安い理由はある。だからといって特上を選ぶ必要もない。どんなものが必要かはっきりさせて欲しい。

質問4：ユーザーが木を選ぶと工務店がいやがるのでは？

回答：きちんとした仕事をしているところは公開しているので、いやがらないと思う。いろいろなものを見せて比較してくれるところは良心的だと思う。他を見せず逃げないようにユーザーを抱え込んでしまうのは自信がないからだと思う。

※このセミナーをビデオ録画してあります。ご希望の方には貸し出ししますので事務局（山口）まで申し出て下さい。

平成14年度 第6回住まいの研究会記録

日時：平成14年12月14日（土） 13:30～16:00

場所：すまいるネット

参加者：岩井、後藤、尾瀬、河南、澤木、鈴木、竹本、垂水、常俊、長町、野崎、橋本、浜谷、平内、山本、吉川、横田（計18名）+事務局1名

内容：

1) 第三グループの発表

木材を消費・廃棄する時代ではないという観点から、「木を活かす」というテーマの下、多面的に木材の再生及び活用方法と問題点を探ってみました。

「輸入材の安全性」については、資料や調査方法を得ることができず、今回の発表は見送ることになりました。輸入材についての情報がありましたら、提供をお願いします。

●エンジニアードウッドと木質材料について（竹本）

- ・エンジニアードウッド(以下EW)と木質材料はどのような区分をするかそしてその相関関係について。
- ・EWの定義と区分法、創出された背景について。
間伐材、未利用材、廃材の活用、その他
- ・EW使用にあたってのメリットと注意事項について。
強度性能が保証された材を使用することによる、設計上及び施工上の利点他
- ・原料エレメントによる分類とその成形製品の呼称について。
系統図を用いて分かりやすい分類を試みた。
- ・EWと木質材の種類について
用途・原材料・特徴・寸法・製造過程・接着剤の種類までをまとめた。

●集成材について（橋本）

- ・集成材の原材料と国内製品、輸入製品の流通量について。
- ・集成材の種類と特徴について。
構造用と造作用の違い
- ・集成材の生産量に占める用途の割合と使用状況について。

●液相乾燥スパードライヤーについて（橋本）

- ・反り、割れ、曲がりが少なくなり、いわば形状記憶された材となる。
狂いにくい材の加工法として特許を取得した新しい人口乾燥法

●古材活用について（澤木）

- ・古材活用の意義-----再生と再利用
- ・古民家の再生・再利用の現状と問題点、方法について。
- ・古民家・古材に関する各地のNPO団体とネットワーク情報一覧
- ・古材の入手方法と入手先の情報一覧

●古民家蘇生のビデオ上映（吉川）

- ・古民家蘇生の考え方について
- ・実例：ト部邸の再生をビデオで紹介
木材の使いまわし-----その家で使われていたものを再活用し記憶に残す。
施主の手記紹介

●ヨーロッパにおける建物再生（鈴木）

- ・現地視察した建物再生の事例紹介-----チュービンゲン市

18世紀の建物の改修、元小学校を市役所にと積極的に保存と活用を行っている。
工事中の現場の状況を分かりやすい写真で紹介。

●間伐材の利用について（浜谷）

- ・間伐の必要性と間伐材に関する取り組みについて。
林野庁の対策と資料、兵庫県農林水産部治山課、(財)日本住宅・木材技術情報センター他、各種団体の趣旨とホームページの紹介。
- ・間伐材の活用方法と製品について
企業、団体の趣旨と製品及びホームページの紹介。
- ・間伐材活用の問題点、入手方法について

*このテーマに関しては、第IIグループのテーマにふさわしいため、当日グループ移動となりました。

2) パネル作成についての話し合い

■グループ討議



平成14年度 第7回住まいの研究会記録

日時：平成15年1月18日（土）13:30～15:30

場所：すまいるネット

参加者：岩井、尾瀬、河南、後藤、澤木、鈴木、竹本、垂水、常俊、長町、橋本、浜谷、林田、平内、
正木、山本、吉川、横田、横山（計19名）+事務局1名

内容：

■グループワーク 普及啓発活動の為にパネル作成
データー・素材の持ち寄り、レイアウト

→2/1データー締め →テスト出力

平成14年度 第8回住まいの研究会記録

日時：平成15年2月8日（土）13:30～15:30

場所：テッケンビル

参加者：岩井、浦、河南、栗林、澤木、鈴木、竹本、垂水、常俊、長町、橋本、浜谷、
平内、山本、吉川、横田、横山（計17名）+非会員1名+事務局1名

内容：

■グループワーク 普及啓発活動の為にパネル作成
全体のパネルチェック

→3/1データー締め →フルカラー出力

平成14年度 第9回住まいの研究会記録

日時：平成15年3月15日（土）13:30～16:00

場所：すまいるネット

参加者：岩井、栗林、小西、後藤、鈴木、竹本、常俊、長町、浜谷、林田、平内、八代
山本、横田、横山（計15名）+住まい研未登録1名+事務局1名

内容：

■グループワーク 普及啓発活動の為にパネル完成作業

写真の貼り込みなど

■パネルの説明・発表

完成したパネル前で各グループ簡単な主旨説明、苦労した箇所など報告

■来年度に向けてのトーク&コーヒープレイク

・アンケートの結果、平日や昼の集まりの希望者も多数あり、参加日を変えるなど融通性をもたせる。
・次年度は研究会拡大に向け、「住まいの研究会」以外にも、いくつかのテーマに分かれ、より活発な研究部会を目指そう。また、普及啓発部会を新たに発足。

循環する木の住まい

森を守り木を活かす

パネルNo. ① 山の木から木材になるまで

パネルNo. ② 木をじょうずに使おう

パネルNo. ③ さわってみよう木の感触

(作成者) 岩井、尾瀬、浜谷、林田、平内、正木、山本、横田、横山

木の活かし方 活かされ方

パネルNo. ④ 「木質材料」ってなに？

パネルNo. ⑤ 木質材料はこんなところに使われています。

パネルNo. ⑥ 長く木を活かすこと ～古材情報～

(作成者) 河南、北野、澤木、鈴木、竹本、橋本、八代、吉川

安全な木の家に住もう

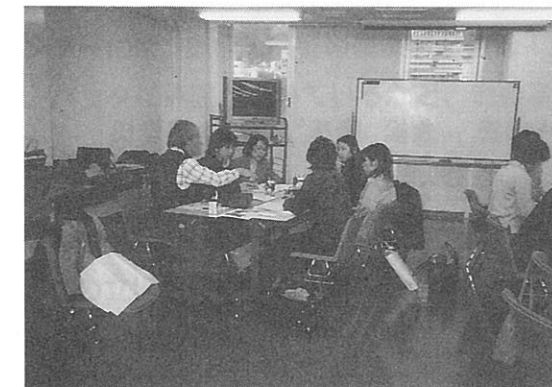
パネルNo. ⑦ 木造のしくみは？

パネルNo. ⑧ 家を建てる時に気をつけることは？

パネルNo. ⑨ リフォームする時に注意することは？

(作成者) 浦、栗林、久保、小池、小西、後藤、垂水、常俊、長町、村田

展示予定地：すまいるネット・伊丹市役所・あいめっせ（姫路）他



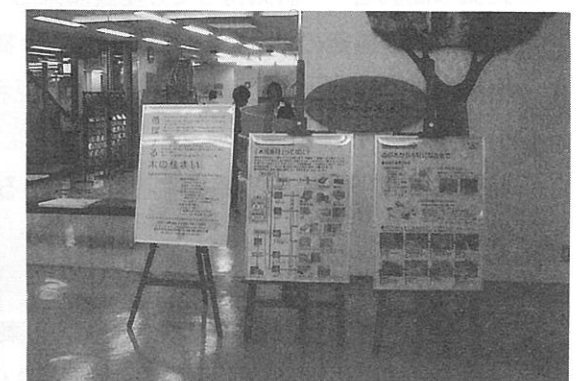
グループワーク



パネル作成



パネル発表



展示風景

講演会「高齢化に向かう暮らしと住まい」記録

- ◆日時・場所 2002.11.30 県立総合リハビリテーションセンター 1F 介護実習室にて
- ◆プログラム 13:30 開会あいさつ 平内女性部会長、祝辞 大海会長、あいさつ 謝課長
- 第1部 13:40~15:10 講師紹介 講演 講師:真藤英恵氏
15:10~15:20 質疑応答
15:20~15:30 休憩
- 第2部 15:30~16:25 テーマ説明 PT・OT 紹介 グループ討議
16:25~16:35 あいさつ 北村副会長、閉会あいさつ 秋田青年部会長
- 第3部 16:35~17:00 展示施設見学(福祉用具見学・体験)

◆講師プロフィール

真藤 英恵(しんどう はなえ)氏

略 歴 大阪府生まれ 1988 年高知医療学院 理学療法科卒業後、病院勤務 在宅リハビリテーションに従事
1995 年より兵庫県立但馬長寿の郷において地域リハビリテーションの推進に貢献 2002 年より順心会
訪問事業部勤務 理学療法士、福祉用具プランナー、介護支援専門員

著 書(専門誌文献) ・地域におけるケアマネジement(共著)理学療法ジャーナル 医学書院
・RAの在宅リハビリテーションの実際 関節外科 メジカルビュー社
(製本) 「介護保険とリハビリテーション」(共著)
・在宅でのリハビリテーション 三輪書店

◆グループ討議に参加の PT・OT

PT 正木 健一氏 中村 春基氏 OT 溝部二十四氏 永松 隆氏 山下 英俊氏
全員県立総合リハビリテーションセンター勤務

◆当日の参加者人数

71 名(講師を含む)

内 64 名(参加申込 69名、当日参加 3名、欠席 8名)

(参加者内訳 士会員 56名、会員外 2名、学生 5名、事務局 1名)

内 6 名(リハビリ研修課 謝 課長、県リハ職員 5名)

◆講演要旨

- 元気な高齢者 …病気持ちでも宴会に来る
- 加齢に伴う機能の低下 …ひとつひとつの機能を取り上げて説明
- 他人にできることは「環境の因子」だけ…便利な道具を使って人の手を借りて人生を全うする
- 介護予防や介護保険の理念
- 自立支援するための提案 …選択肢のある提案、長所・短所を明確に、具体的なフォロー、生活のイメージ、自己効力感
- ディマズとニーズとは違うことが多い
- 今の状態で使える案と 10 年先でも使える案の両方から、生活のバランスをとって解決策を見つける
- 疾病の特徴 …脳卒中、リウマチ、パーキンソン病
- 住環境の整備、改造方針の決定プロセス など

◆グループ討議要旨

全体で 6 グループ構成。各グループにつき PT か OT 1 名参加して、9 名~13 名で行う。

建築士の意見

- ・福祉住宅研究会を作っている。研究会でオリジナルの改造マニュアルを作った。ネットワークの方向を試行錯誤。
- ・個人対象の場合、なかなかマニュアルにあてはまらない。本当のニーズを把握できずに工事し反省した人が多かった。
- ・低い段差解消に斜めのすりつけ板を設置するのは、その上で滑ってかえって危険。

PT・OT の意見と情報

- ・ケアマネともしっかり話し合いたい。業者を挟んだ説明責任範囲をはっきりさせたい。
- ・一緒に作業では非効率なので、PT はケアマネ・工務店が来る 1 時間前に現場に入り必ずメモ書きを作成する。
- ・PT は立つ、歩くなどの基本動作の獲得を目的とし、筋肉や関節を動かす訓練をする。OT は入浴、食事などの日常生活動作の指導をする。PT と平行して OT も指導する。PT はいても OT のいない病院も田舎の方ではある。
- ・リハビリをするメンバーには、PT、OT、ST(言語聴覚士)、義肢装具士、看護師などがある。
- ・ケアマネージャーとは介護支援専門員。地域を支援する人。国家資格。福祉住環境コーディネーター 2 級の人とケアマネージャーは、介護保険を使う住宅改修の理由書が書けることになっているが、事実上ケアマネージャーのみが書いている。
- ・介護支援センターには、医療・福祉の関係者が最低 1 人ずついる。民間組織。単独では事業としてペイできない。バックに病院がついているなど、他の事業とあわせて運営しているところも多い。
- ・地域のケアマネージャーにネットワークを呼びかけるなど、お互いに情報交換して、協力しあうネットワーク作りができるのではないだろうか?個人的なつながりの中で相談をすることもある。
- ・OT として工事後のチェックが出来ないのが不満。福祉をボランティア化する風潮は疑問。医療全体の中でリハビリの立場は弱いのが実状。
- ・リハセンター相談窓口: 展示ホール毎週水曜日は専門相談日。県内対応可。何度でも相談できる。



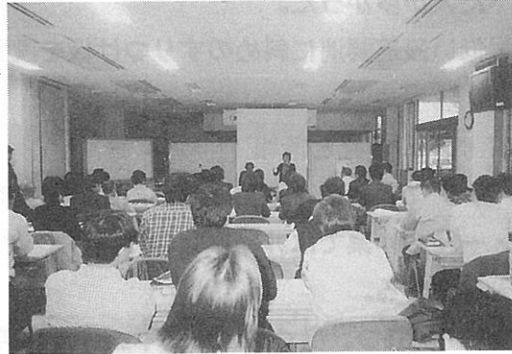
展示施設見学の模様

創立 50 周年記念青年・女性委員会合同事業
講演会『高齢化に向かうくらしと住まい』報告

女性委員会 吉川 久似子

11月30日(土)PM1:30より県立総合リハビリテーションセンター1F介護実習室において、現在訪問リハビリ活動に従事されている理学療法士 眞藤英恵氏(しんどうはなえ)を招き加齢に伴う体の変化(機能低下)や同じ病気や訴え方は個々によって違う事などを主に話して頂きました。

誰もが日々の中で自然と老いて行く。ある日、何かしら上げたはずの足があがっていきつまずきやすくなっていたり、高周波域の音が聞き取りにくくなっていたり、会話の内容が理解出来なくなっている、臭いに鈍感になってきたら、多かれ少なかれ老いの始まりである。しかし、加齢の利点もあり自分の時間が十分に持てる、長年の人生経験によって得られた知識の蓄積がある。これまでは、仕事から離れると何をしたいのか分からなかった人が多かったが、現在は自分の時間を大切にできるようになって来て、65歳以上の方で、スポーツセンターを活用する人も増えて来たとの事。



熱く語る眞藤氏

又、一日中立ったまま、食事作りと後片付けに追われていた主婦が、座って調理をすることに変えると、立って作業していた時の体の負担の緩和により苦痛からのがれ、体力的にも精神的にもゆとりが生まれ、食材に不満が出て来て、自ら外へ出かける様になり毎日が活動的になった。「環境が変われば障害は変わる。」と眞藤氏は言う。この様な事例をまじえ、医療・建築分野それぞれにおいて自立支援の為に対象とする人の生活の流れを知ってあげたり、よい話を聞いてあげ、医療・建築に携わる者同士が協力して、環境を作り上げる事が大切である事と奥の深さを感じました。



グループ討議の様相

その後、6グループに分かれ、各グループごとに理学療法士・作業療法士を交え討論を行いました。あるグループ討論に一人の中学生(女)がいて、彼女は小さい頃母を亡くし祖母に育てられた。その祖母がだんだん年老いて、リュウマチになってきたのを見て、「自分が何かしてあげられないかな。」と思い、楽にさせたい為にサークルに入りボランティア活動をし、その中で建物に興味を持つようになったとの事。人間として忘れかけていた、人を思いやる気持ち。こんな純粋な心を持つ子供がこれからの社会に出ようとしていました。中学生ではありませんでしたが、今回の私たちの勉強会がまさしく的を得た内容であったので有意義な学習が出来たと思います。

また、住宅改修は「インタビューに始まり、インタビューに終わる。当の本人抜きでは改修は出来ない」と言う言葉が印象に残りました。

参加者79名、内大学生1人・専門学生5人・中学生1人といつの間にか人が人を呼んで将来を担う若者達の参加となり大盛況でした。今回この講習会に行き、参加して本当に良かったと思います。この場をお借りし、陰で支えて下さった支部の方々、関係者の皆様、スタッフの皆様ありがとうございました。この講習会によりネットワークが広がり、色々な面で、足がかりとなります事を願っております。

(社)兵庫県建築士会女性部会
20周年記念懇親会 記録

日程 平成15年2月15日(土)
スケジュール 14:00 受付開始
14:30 乗船開始
14:40 開会(15:00 出航)
16:20 閉会
16:30 下船
記念撮影

場所 「コンチェルト」船上(アメジストの間)
神戸ハーバーランド・モザイク1階 乗船待合集合
会費 会員 3,500円(非会員 4,000円)

式次第
挨拶 兵庫県建築士会 女性部会長 平内 節子
祝辞 兵庫県建築士会 会長 大海 一雄
乾杯 兵庫県建築士会 担当副会長 北村喜八郎
花束贈呈 初代 2期部会長 中川 俱子(欠席)
第3 4期部会長 鍵野 洋子
第5期 部会長 武野 朋子
第6 7期部会長 野崎 瑠美
第8 9期部会長 正木 恵子
第10期 部会長 平内 節子 <敬称略>

ひとことインタビュー(随時)

アトラクション その1 席替えしましょ!

その2 プレゼントが当たる!

挨拶 兵庫県建築士会 女性副部会長 鈴木 洋子
記念撮影 <下船後埠頭に>

参加者 兵庫県建築士会より 男性会員 6名(0B含む)
近畿建築士協議会女性部会より 7名
女性部会会員(賛助/非会員含む) 34名 合計 47名

